

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒 1階		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20-59		
自己評価作成日	令和4年3月12日	評価結果市町村受理日	令和4年6月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ渦の中、入院や通院が難しいので、いち早くお客様の異変に気付けるように、日々気にかけて見守りを行っています。  
今は思い切ったレクは難しく、ご家族様との面会も難しいので、職員が温かい雰囲気を作るよう心掛けいたします。安心して頂き、寂しい思いをしないよう、声掛けするようにしています。外出も出来ないの  
で、季節を感じてもらうために、レクの他に季節ごとの行事は行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほのぼの月寒」は、バス停から徒歩で5分ほどの静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットの事業所である。居間と食堂の壁には季節の装飾や利用者の書初めなどの作品が飾られている。居室の入り口近くの壁には、それぞれの利用者の写真が掲示してあり、訪問した家族の楽しみになっている。新たに就任した管理者を中心に、全職員で「笑顔と思いやり」という運営理念に沿って細やかに情報交換しながら一人ひとりの利用者に応じた適切なケアを行っている。管理者は内部研修を計画的に実施し、職員育成や資質向上にも熱心に取り組んでいる。市町村との連携面でも、担当者同士日々情報交換しながらケアや運営に活かしている。感染症収束後は近隣住民の協力を得ながら利用者と一緒に畑作りをしたり、幼稚園や小学校に働きかけて子ども達との交流も実施したいと考えている。外出行事や出前などを多く取り入れて利用者の楽しみごとを増やしたい意向を持つなど管理者は常に前向きに運営に取り組んでいる。職員意見の反映では、各職員の意見や提案に耳を傾けて常に話し合いながらより良いケアにつなげられるように取り組んでいる。コミュニケーションが良く、管理者をはじめ職員間でも適切なアドバイスをを行うことができる働きやすい職場であり、今後も更なる発展が期待できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は印刷して、職員の目につくところに貼っており、日々その理念に基づき実践するようにしています。	運営理念「笑顔と思いやり」の中に、地域密着型サービスの意義を踏まえた項目が含まれている。玄関やスタッフコーナーに掲示し、職員のネームプレートにも記載している。今後も職員間で理念を再確認しながら共有していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前は認知症カフェを開催しておりましたが、現在は出来ておりません。	感染症流行により、職員が除雪などをしながら近隣住民と会話を交わす程度になっている。感染症収束後は地域住民の協力を得ながら畑作りをしたり、幼稚園や小学校に交流を働きかけていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2.1月以降、開催出来ておりません。	感染症流行により、この2年間は会議を開催していない。今後は感染状況を見ながら、書面会議や構成メンバー出席の会議を計画的に開催したいと考えている。会議開催時は、全家族に会議案内と議事録を送付する予定である。	書面会議の時も、議事録と一緒に役立つ情報資料を送るなどの工夫を期待したい。実際に会議を開催する時はテーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の意見や質問も事前に聞き取り会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡は取ってはおりませんが、メールに目を等して疑問点やわからない事は質問するようにしています。	管理者交代により、管理者変更届を提出している。区役所の保護課とは、ほぼ毎日電話で情報交換したり、月1回訪問して利用者の状況を伝えながら家族対応などについて相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については1年に2回研修しております。研修報告書を提出してもらい、自分自身を振り返る機会を設けています。	身体拘束ゼロへの手引きを整備し、禁止の対象となる具体的な行為11項目を事務所やスタッフコーナーに掲示している。具体的な禁止行為やスピーチロックに関する勉強会を実施している。身体拘束適正化委員会の議事録は、分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については1年に2回研修しております。研修報告書を提出してもらい、自分自身を振り返る機会を設けています。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開いて、理解してもらい必要な時に知識を生かして、支援出来る体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居前の説明など、十分に時間を取って、説明するようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には連絡を取りながら、お客様の近況をお伝えするようにしています。	リモート面会や来訪時に、利用者の様子を伝えながら家族の意見や要望を聞き取っている。毎月「ほのぼの月寒たより」を発行して個別の様子も伝えている。家族の意見や要望、職員の気付きは個別に記録し、職員間で共有したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の見直しや、ホームを円滑に運営するために月に一回全体会議を開いて、意見交換の場を設けています。	管理者は、会議や普段の業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、意見交換しながら環境整備や業務変更などに反映させている。年1回の個別面談の他、状況に応じて随時職員と話をする機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはプリセプター制度で先輩がマンツーマンで指導にあたるようにしています。 職員には常に目標を立ててもらいステップアップ出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社のグループ内で意見交換を出来るような場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、職員も生活を支えるというより、共に協力していくような関係性を築く努力をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様、ご本人様共に意向を確認し、支援につなげています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の中では、ご家族様以外の面会にご遠慮して頂いています。 お電話での取次はさせて頂いています。	感染症流行により来訪する方はいないが、宗教関係の方から手紙が届く利用者もいる。感染症流行前は、家族と受診帰りに食事をしたり自宅に帰る利用者もいた。感染症収束後は、ドライブなどで馴染みの場所にも出かけたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地の良い空間を作り、皆が協力できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もどのような生活をおくられているか等、連絡は取るようにしています。住所変更していない場合も多く郵便物が届くこともよくあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを開催し、ご本人様にとって最適な支援はなにか検討しています。	会話や表情、仕草や視線などで思いや意向を把握している。生活歴などの基本情報は整備されているが、利用者の暮らし方や趣味、嗜好などの情報は記録されていない。	センター方式シート(B-3)などを活用しながら、本人の暮らし方や趣味、嗜好などの情報を具体的に記録に残し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にヒアリングして、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間と一日を通して、生活のリズムを把握するように記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで話し合ったことなど、ご家族様に伝えて、最適な計画を作成できるように努めています。	日々の介護記録を参考に「ひもときシート」を作成し、4か月～6か月ごとに計画作成担当者が介護計画を作成している。職員はサービス内容項目を意識して日々の記録を記入しているが、評価には携わっていない。	家族の意向を具体的に聞き取ると共に、全職員が評価に携わりながら意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録の記入、申し送りをしっかり行い、職員全員に情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応や買い物代行、様々なニーズに対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時や災害時など、地域資源に頼らなくてはならない場面もあることを想定して把握しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日対応して頂ける往診医と連携し、体調管理に努めています。	ほぼ全員が月2回、協力医療機関の往診を受けている。外部受診も事業所で支援することが多いが、家族と受診する時は状況に応じて利用者の様子を書面で伝えることもある。受診と往診は個別に記録している。	

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3回、看護職員が出勤しているため、記録や申し送りを行い、介護との情報を常に共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は退院時の事も含め、話をしており退院後の受け入れも含め、情報はもらうように連携を取るようになっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応、終末期ケア対応指針に示し、ご家族様に説明しています。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って、医療行為が必要になった時は対応が難しくなる旨を説明している。体調変化に応じて家族の意向を確認し、希望に応じて看取りも行っている。毎年看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、迅速に対応できる様になっています。AED操作の研修も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを作成し、迅速に対応できる様になっています。防災グッズの備えもしています。	昨年は昼間の火災を想定した自主訓練を1回のみ実施している。今後は感染症の収束状況を見ながら、消防署や地域住民の協力を得た避難訓練を定期的実施する予定である。職員の救命講習受講も計画的に進めたいと考えている。	地震時の事業所内の危険箇所を確認し、ケア別の個別対応についても話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に職員間で確認するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックの研修も行っています。正しい声掛けを心掛けるようにしています。	「さん」付けで呼びかけている。接遇に関する内部研修を行っている。個人記録は部屋番号を使い、他者の目に触れない所に保管し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや気持ちを伝えられるように、聞き手としての心構えをするようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を無視しないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は何を着たいか等、その方の好みを重視するようにしています。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いの一環として、後片付けのお手伝いをして頂いています。コロナ渦の為、食事は調理済みの物を使用しています。	食材業者作成の献立を利用し、刺身やデザートなどを追加することもある。洗米など利用者も可能な範囲で参加している。今後は出前や外食の機会を設け、より一層食事を楽しむことができる支援を考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や盛り付けなど、おいしく召し上がっていただくための工夫を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排雪の介助が必要な方で、立位が取れる方はリハビリパンツを使用し、トイレ誘導を行っています。	日常生活記録表に記録の後、個別記録に排泄状況をまとめている。本人の意向で排泄用品を使用したり時間帯でパッドの大きさを変更する他、適切な声かけ誘導を行い、失敗を減らして排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は管理を行っています。自力排便が難しい方は下剤の服用や看護師による摘便など行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて、午前午後と柔軟に対応しています。	毎日入浴が可能で一人当たり週2回、午前を中心に入浴を支援している。利用者の体調により清拭の場合もある。湯上りのジュースが楽しみになっており、今後は入浴剤の利用など入浴の楽しみを増やしていきたいと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子に座った状態で傾眠されていたり、夜間よく眠れなかった時などは、昼寝など休息を取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調管理の一つとして服薬管理はとても重要な事なので、常に誤薬、落薬などの事故防止に努め、適正に服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクを提供するようにしています。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で今現在は外出支援は行っていません。	天候のよい日は事業所周辺や近隣の公園への散歩を行っている。感染状況に応じて、ドライブでの花見や鯉のぼり見学など季節を感じるができる外出をしたいと考えている。事業所内の畑を利用し、畑作業などでも外気に触れる機会を積極的に設ける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で今現在は外出支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎやご家族様にビデオ通話などの支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い、安全、安心を心掛けています。	対面式キッチンから見えるリビングにはソファや椅子があり、利用者の好きな所で過ごすことができる。季節の花や飾り、利用者の写真、書初めなどが掲示してあり家庭的な温もりを感じる共用空間になっている。浴室や洗面所へのスペースも広く、車椅子の利用者も安心して過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席やソファでくつろいだり、お気に入りの空間を作れるように支援を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を配慮しながら、家具の配置やお気に入りの家具など持ち込んで頂くようにしています。	全居室に温湿度計が備え付けられている。利用者は使い慣れたベッドや椅子、タンスなどの家具、ラジカセやテレビなどの家電製品を持ち込んでいる。ぬいぐるみなど好みの物を持ち込み、以前からの生活を継続し居心地よく過ごすことのできる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安な方や、車いすを使用している方、自立歩行されている方、それぞれの方が事故なく暮らせるように配慮しています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒 2階		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20-59		
自己評価作成日	令和4年3月12日	評価結果市町村受理日	令和4年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ渦の中、入院や通院が難しいので、いち早くお客様の異変に気付けるように、日々気にかけて見守りを行っています。  
今は思い切ったレクは難しく、ご家族様との面会も難しいので、職員が温かい雰囲気を作るよう心掛けいたします。安心して頂き、寂しい思いをしないよう、声掛けするようにしています。外出も出来ないの  
で、季節を感じてもらうために、レクの他に季節ごとの行事は行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は印刷して、職員の目につくところに貼っており、日々その理念に基づき実践するようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前は認知症カフェを開催しておりましたが、現在は出来ておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2.1月以降、開催出来ておりません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡は取ってはおりませんが、メールに目を等して疑問点やわからない事は質問するようにしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については1年に2回研修しております。研修報告書を提出してもらい、自分自身を振り返る機会を設けています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については1年に2回研修しております。研修報告書を提出してもらい、自分自身を振り返る機会を設けています。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開いて、理解してもらい必要な時に知識を生かして、支援出来る体制を整えています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居前の説明など、十分に時間を取って、説明するようにしています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には連絡を取りながら、お客様の近況をお伝えするようにしています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の見直しや、ホームを円滑に運営するために月に一回全体会議を開いて、意見交換の場を設けています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で評価をしています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはプリセプター制度で先輩がマンツーマンで指導にあたるようにしています。 職員には常に目標を立ててもらいステップアップ出来るようにしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社のグループ内で意見交換を出来るような場を設けています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、職員も生活を支えるというより、共に協力していくような関係性を築く努力をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様、ご本人様共に意向を確認し、支援につなげています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の中では、ご家族様以外の面会にご遠慮して頂いています。 お電話での取次はさせて頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地の良い空間を作り、皆が協力できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もどのような生活をおくられているか等、連絡は取るようにしています。住所変更していない場合も多く郵便物が届くこともよくあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを開催し、ご本人様にとって最適な支援はなにか検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にヒアリングして、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間と一日を通して、生活のリズムを把握するように記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで話し合ったことなど、ご家族様に伝えて、最適な計画を作成できるように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録の記入、申し送りをしっかり行い、職員全員に情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応や買い物代行、様々なニーズに対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時や災害時など、地域資源に頼らなくてはいけな場面もあることを想定して把握しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日対応して頂ける往診医と連携し、体調管理に努めています。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3回、看護職員が出勤しているため、記録や申し送りを行い、介護との情報を常に共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は退院時の事も含め、話をしており退院後の受け入れも含め、情報はもらうように連携を取るようになっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応、終末期ケア対応指針に示し、ご家族様に説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、迅速に対応できる様になっています。AED操作の研修も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを作成し、迅速に対応できる様になっています。防災グッズの備えもしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックの研修も行っています。正しい声掛けを心掛けるようになっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや気持ちを伝えられるように、聞き手としての心構えをするようになっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を無視しないようになっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時は何を着たいか等、その方の好みを重視するようになっています。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いの一環として、後片付けのお手伝いをして頂いています。コロナ渦の為、食事は調理済みの物を使用しています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や盛り付けなど、おいしく召し上がっていただくための工夫を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の介助が必要な方で、立位が取れる方はリハビリパンツを使用し、トイレ誘導を行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は管理を行っています。自力排便が難しい方は下剤の服用や看護師による摘便など行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて、午前午後と柔軟に対応しています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子に座った状態で傾眠されていたり、夜間よく眠れなかった時などは、昼寝など休息を取れるようにしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調管理の一つとして服薬管理はとても重要な事なので、常に誤薬、落薬などの事故防止に努め、適正に服薬できるように支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクを提供するようにしています。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で今現在は外出支援は行っていません。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で今現在は外出支援は行っていません。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎやご家族様にビデオ通話などの支援を行っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い、安全、安心を心掛けています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席やソファでくつろいだり、お気に入りの空間を作れるように支援を行っています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を配慮しながら、家具の配置やお気に入りの家具など持ち込んで頂くようにしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安な方や、車いすを使用している方、自立歩行されている方、それぞれの方が事故なく暮らせるように配慮しています。			